

# 図書館たより

号数 第51号  
発行日 昭和56年3月20日  
編集発行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 22-5725  
印刷渡部印刷



(くしゃみくしゃみ天のめぐみ) より

## 新図書館の誕生をよろこぶ

島根県立図書館長 林 晃二

この4月から、新しく町立図書館が3館誕生する。本県の公立図書館は、ここ10年近くの間、6市5町の11館のままであった。もっとも、昭和52年から53年にかけて、青年会議所経営の児童図書館が、安来、平田、出雲の3市に相次いで創設され、地域の子ども達の育成に大きな役割を果しているが、これを除いては長らく県下の図書館界で目立った動きはなかった。

ところが、昨年4月日原町立図書館が生まれ、続いて本年4月から、石見町、仁摩町、佐田町で、県の図書センター制度の期間の終了を機に、町立図書館が設置されることになった。これら4町の図書館は、いづれも専用の建物が新しく建築されたわけではない。近くその計画はあるようだが、当面は中央公民館やコミュニティー・センター等の図書室を強化して、これを母体に、地区公民館等を分館や配本所として発足するものである。

図書館は、立派な専用の建物があるにこしたことはないが、それよりも中味が問題である。豊富な図書を整え、専任の職員を配置することがより大切である。更に肝心なことは、図書館と住民とを結びつける積極的な活動がなされているかどうかである。図書館が、図書館としての機能を充分發揮しているかどうかは、建物ではなく、その活動の如何によることは、東京三多摩地区の図書館活動の事例を挙げるまでもあるまい。

これらの4町は、その点において、現在でも先輩の6市5町の図書館に決して劣るものではないし、今後の計画によれば、地域における読書振興の活動が一層充実強化される方向に向っている。

数年振りの新図書館の誕生を心から祝福し、その活躍を大いに期待したい。

# 昭和56年度 県立図書館各種講座

申込方法～「住所・氏名・電話番号・受講講座名」をハガキか電話で

〒690 松江市内中原町52 県立図書館管理課普及係まで TEL 0852-22-5730

申込期日～4月30日まで

区分	県立図書館主催事業 (テキスト代を除き無料)			県立図書館協力事業	
事業名	出雲国風土記 を読む会	古文書を読む会		図書館	源氏物語を読む 会
		入門講座	上級講座	読書教室	
開催日	毎月 第3火曜	毎月 第1土曜 第3木曜	毎月 第3土曜	毎月 第3火曜	毎月 第2・4木曜
時 間	13:00~15:00	13:30~15:30	13:30~15:30	10:00~12:00	14:00~16:00
会 場	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館	県立図書館
募集人員	50名	50名	50名	30名	30名
対象	一般				
内 容	わが国でただ一つの完本としてのこっている「出雲国風土記」を講読しながら古代出雲の実相をは握し、郷土のもつ深い歴史性を理解する講座です。	県立図書館が編集した「古文書ハンドブック」その他のテキストを使用します。初歩から手ほどきし、読解力の養成につとめる講座です。	入門講座を終えた程度の読解力をもつ人が対象になります。テキストを使用して読解はもとより、史料の背景をなす郷土の歴史に及ぶ講座です。	読書に親しみながら人生に社会にあるいは文化に対する見方、考え方を養う目的から誰でも気軽に参加できる講座です。参加者はグループを作り、集団読書のかたちで和やかに意見の交換体験の交流をはかります。	引き続いて「源氏物語」の講読と鑑賞を行います。 原文の解説によりくみつつ王朝文化の精髄にふれる高度な講座です。 今年は「蜻蛉」の巻から始まります。 (要受講料)
講 師	県立図書館 資料課長 藤岡 大拙	郷土史家 桜木保	県立図書館 資料課長 藤岡 大拙	読書関係 指導者	元広島 女学院大学 教 授 宍道 達

# わが家の親子読書実践記録から

昨秋、「読書週間」にちなんで、「わが家の親子読書実践記録」を募集しましたところ、多数のご応募をいただき、厚くお礼を申し上げます。

読み聞かせによる子どもの心のひろがり、子どもの姿を通して母親自身の意識の深まり、等の観点から10編を選び、「読進協」機関紙に掲載しました。当紙では、その中の2編を紹介します。

## 心の成長に期待しながら

浜田市朝日町

野上 昭子 主婦

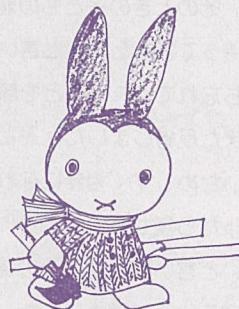
わが家で本の読みきかせを始めたのは、現在小学5年の長女が2才のときである。就寝前のひととき、ブルーナのうさこちゃんにはじまってひとまねこざるのジョージが好きになり、シンデレラに夢を駆せながら次第に長い話を読むようになった。その間に次女が生まれ、2年生の姉の横に坐って2才の妹が「るすばん先生」に聞き入る姿があった。そのうち次女も自分で絵本を探して持ってくるようになり、2人に一冊ずつ読んでやる時期がしばらく続いた。長女は4年生になると一人でどんどん読むようになり、ケストナーなど私の昔の愛読書を読んではお互いにあそこが良かった、ここが好きだと言い合える仲間に成長してくれた。また、最近出た本を私に薦めて、私も夜のひとときを一心不乱に読みふけるということもある。そして、目下のところ幼稚園の次女と2才の3女が読みきかせの対象である。

どうして読みきかせを始めたのか思い出せないのだが、私はもともと司書希望だった。司書の資格を取りはしたものとのチャンスに恵まれず、教員として学校図書館の経験を3年しただけだが、いつの日か文庫を開いてみたいという夢を持ち続けている。そんな過程の中でいつの間にか始めていた。石井桃子さんの「子ども図書館」などを参考にして子供の本をかなり買った。本がたくさんあると粗末にするといわれるが、それは躊躇の1項目であって、身近に本があるといつまでもその気になったとき触れることができるという利点がある。

今年度、次女の通う幼稚園が親子読書推進運動の指定園になり、色々な本に接することができるようになった。家に本が沢山あるといっても個人の力には限度がある。県立図書館推薦の絵本リストによって新しく出たよい本を知ることもできるようになった。

子どもの借りてくる本は多様である。もちろん、内容をはっきり掘んで借りてくるわけではないのだが、昔の話、現代の話、絵を見ても形のきれいなものあれば、これが兎かなと思えるようなものもある。子どもは色んなものを吸収していく力があるのだとつくづく感じる。そして1冊を何日か続けて読むうちに子どもの心の中に1つの世界が生まれるのだろう。疑問を出したり感想をいったり楽しいひとときが持たれる。子どもなりに自分の思っていることを聞いてもらいたいという欲求が生ずるのだろう。相手をしているうちに親子の対話も生まれる。また、姉妹で簡単な絵を1枚ずつ描いて棒につけ人形劇よろしく遊んだりもする。多くのお話を聞き、種々な絵に見入っているうちに心の世界もどんどん広がっていくにちがいない。それに伴ない心の成長もあるにちがいないと期待している。多くのものに触れていくうちには何年先のことかわからないが眞の愛読書に出あうことだろう。

この8年、わが家の読みきかせ活動が子どもたちにどのような効果を与えることになるか、将来にまたねばならないが、人生を有意義にあるいは楽しくするために読書の習慣が身につくよう、親として少しでも手を貸すことができればうれしいと思いつつ、今夜もまた本を開くのである。そして、その手伝いのできるのはきっと膝にのせられる小さい時期であろう。その期を逃さず大切に過ごしたいと思うこの頃である。



ゆきのひのうさこちゃん

## スキンシップを求めて

益田市高津町

有 近 真理代 主婦

親子読書会への入会の動機は、今考えると自分勝手で、本当に恥ずかしい気がします。当時、私はただ、毎週本を借りて帰れば、子どもにも、自然に読書の習慣が身につき、こんなよいことはない、と思っていました。

ところが、初めて読書学級に参加したときにご講演いただいた先生から、子どもに本を読んで聞かせることの意味や、子と親とのふれあいの重大さのお話しを聞いたとき、私は、はっとしました。私には6才と3才の女の子がいますが、初めての子どものときは、物珍らしさも手伝って、随分スキンシップにも努めたものです。しかし今3才の子どもの方は、私が何かと忙しく、考えてみると、落着いて心を込めて抱いてやったことが無いような気がします。私は、大いに反省をして、その日以来、子どもを膝にしっかりと抱いて、読み聞かせを始めました。

しかし、突然に目覚めた私の情熱はひと月もしないうちに、すっかりくたびれてしまいました。同じ本を何度も何度も「よんで」「よんで」いったいどの位続けたら「もういいよ」と言ってくれるのか。2～3回位までなら、なんとか気分を込めて付き合えますが、全くきりが有りません。最初の頃は、今までの反省の意味も含めて相当努力して読み聞かせました。ところが、「ねえ、本を読んで」が、度重なると、私も少々うるさくなつて、「ちょっと待ってね。あとで読もうね」と言っては逃げ、とうとう「あんまりうるさく言ったら、読まないよ!」と脅迫する始末です。そのときの子どもの悲しそうな顔…。いつも、「待って」、「あとで」と言い乍ら、実は、子供がそのうち忘れてくれることを願っていた自分の心を、またまた反省しました。子どもをいつもがっかりさせないため、すぐ相手になれないときは、「〇〇時になったら読もうね」とか「これが済むまで待ってね。」と言い聞かせ、その場合には、私も約束は必ず守るように努めました。すると3才の子が

人の都合に合わせてちゃんと待つことができるようになりました。読んでもらいたい!!という一心はこんなにも強いものかと思いました。

今、親子読書を始めて半年になります。子どもの本への接し方も少しずつ変わってきました。最近は、ひととおり読んでもらうと、「こんどは、わたしがよむよ!」と言って、結構、ストーリーから外れないように言葉を探しております。この場合、自分の感想が、大いに入っているので、私も楽しみです。それから初めは、自分の本も借りた本も区別がつきませんでしたが、今では、「みんなが読む本だから大切にしようね」ということばの意味が理解できるようになりました。そして、私にとって、とても感動的な経験は、本を読み終えたとき、今まで私の膝の上で向うむきに座っていた子が、ジワーッと向き直つて、ギューと抱きついてくることです。その言葉で言い表わせない仕草に、私の腕にもつい力がこもります。これは親子読書を始めるまでは気が付かなかった感激ですが、今では、幼稚園の帰り、バスから降りると両手をいっぱいにひろげて飛びついて来る子を、私も、思いっきり大らかに、受け止めてやることができます。

これまでの育児的感覚から大きく脱皮し、これからは、子どもとのふれ合いを喜び、挙動をしっかり見つめ、大いに考え、反省しながら、子どもを導いてやりたいと思います。

今呼ばれている家庭教育の入門の手掛かりがやつと見つかり、それに向かう勇気さえ湧いて来たところです。



# 新刊図書

## ご案内

### なんとなくクリスタル

田中康夫著

河出書房新社刊 880円

昭和55年度文芸賞受賞。選考の段階でも、賛否両論入り乱れて、大いに話題になった、フィーリング時代の産物である。発売以来、爆発的に売れている。

著者は学生、現代の都会の学生風俗誌ともいえる内容である。

両親は外国著し。同棲中の学生兼カメラマンがいて、自分もモデルをして、経済的には優雅である。「なんとなく」「クリスタル」に暮している女子学生

の日常を追っている。

ブランド商品、高級志向を、肩肘はらずにこなすのが、極上の生き方だと感じる、現代の著者そのままで、行間に最近のカタカナ造語が氾濫している。もし、その半分でも、知っていればかなりのクリスタル族通であるといえるのではないだろうか。マンガも、哲学書も読み、耳にはヘッドホーンと多様化した若者の趣向にぴったりあった著書である。

### 世界の挑戦

セルヴァン=シュレペール著

小学館刊 2,000円

世界の情勢は今日混沌とした危機状態にあるといわれています。戦後アメリカは世界最強の国として、各国に様々な戦いを挑みました。その結果、挑戦をまともに受けて心至に生き抜いたのは日本であり、ヨーロッパであるのに対して、肝心のアメリカは活力を失い、ソビエトや第3世界への対応の誤りが重なり大きく後退してしまいました。このことは現在いかなる超大国といえども、近隣諸国、後進国との政治的、経済的、文化的援助協力なくしては、健全

な発展があり得ないことを教えてくれたといえます。著者セルヴァン=シュレペールはこのような状況をこの本で実に的確に描いております。例えば石油産油国の西欧先進国に対する反撃、脱工業社会をすみやかにやってのけた日本経済の実情、南北共生論等の描写は、さすがにフランスきってのジャーナリストであり、現在ヨーロッパ最高の知能の一人であるといわれる著者の面目躍如たるものがあります。

### 目明し金十郎の生涯 江戸時代庶民生活の実像 阿部善雄著

中央公論社刊（中公新書）440円

現在の福島県の一部、阿武隈川の東にひろがって守山藩という2万石の小藩があった。守山陣屋の政務日誌である「御用留帳」143冊は、わが国に残る最もすぐれた近世民衆生活史料である。陣屋の政務とともに、凶作に苦しみながら芝居、湯治、ばくちにわずかな楽しみを求めた近世の庶民生活を再現させてくれる。

この史料のなかから、金十郎という1人の目明しの生涯に焦点をあてる。欠藩人退跡、夜盗捜査、ば

くち、芝居興行、強訴一揆調査に活躍する金十郎は、一方ではやくざの顔役でもある。享保9年から明和7年までの46年間の長きにわたる彼の軌跡をたどると、従来断片的にしか知られていなかった目明しの実態と幕藩体制下における役割が浮きぼりにされる。やくざの顔役になぜ犯人逮捕の警察権を与えたのか、領外逃亡者、犯罪人はどのようにして逮捕されたのか、芝居興行や博徒の実態等、興味深い近世裏面史でもある。

### 異常気象を追って

根本順吉著

中央公論社刊（中公新書）360円

今冬の記録的な豪雪と、2月の末に日本列島を襲った猛烈な戻り寒波は、昨年の冷夏に続き、異常気象の恐ろしさをさまざまと印象づけましたが、その世界的な気象変化の予兆をいち早く捉えて、科学的に追跡したのがこの本です。

私達の日常生活において、毎日のお天気の変化は、朝、傘を持って出かけるかどうかに始まり、旅行に出かける時、その日の天候によって飛行機が飛ぶかどうかなど非常に身近な問題ですが、その年の気象が農作物の出来、不出来に多大な影響を及ぼすと、単なる気象現象としてではなく、世界的な食糧問題

にまで発展し、当然私達の経済生活にも、大きくかかわることになります。

そこで、明日とか、今年の夏のお天気ではなく、少し視野を広げて、これから21世紀にかけての地球的な規模での気候の変化は、どういう傾向にあるのか、地球は今、氷河期に向っているといわれるけれども、太陽の黒点の活動や、火山爆発とは、どんな相関関係にあるのか、過去のしっかりしたデータにもとづき、多くの興味ある話題について分かり易く解説してあるナウな読み物です。

# NEWS

## ■増築計画を含む昭和56年度当初予算きまる

昭和56年度の当初予算がきまつた。全般的にみて、厳しい財政事情の下ではあるが、県立図書館の活動に対して、相当に理解ある査定がなされたものといえるだろう。ことに、56・57年度2カ年にわたる事業として、総額3億4,000万円（56年度2億3,800万円）の書庫を含む増築計画が認められたことで、かねて待望していた懸案事項の一が解決し関係者にとって喜ばしいことである。また、市町村読書普及活動育成事業費が、前年比約5割増になったのは、指導員の1名増が認められたためである。2名の指導員によって、幅広い活動が出来る態勢がより強化されたわけである。

## ■島根県公共図書館協議会、職員研修会盛況裏に終る

昭和56年3月4、5日の2日間、県立図書館で職員研修会が開催された。これは協議会が図書館等読書施設の担当者を対象に、毎年1回開催しているものだが、今回は特に多数（60名）の参加者があった。

第1日は「市町村読書施設における図書の選定と整理」をテーマに事例発表を行い、これに基づいて研究討議、第2日は「市町村における読書普及活動」をテーマに、親子読書運動を実施している担当者から事例発表を行い、さらに子どもの読書導入のための行事を実演、関係者の助言をまじえた研究討議が熱心にかわされた。

2日間を通じて充実した研修がなされ、今後の読書活動推進のための大きな収穫が得られた。

## ■寄贈図書 ご恵贈ありがとうございます

書名	住所	氏名
小学校郷土史学習の試み	松江市	宍道正年
琴引六二会	松江市	音羽融
山陰の女 第10号	簸川郡	岡より子
出雲の神話 ガイドブック	松江市	錦織好孝
句集 母	仁多郡	渡部彬晁
楠氏と石州益田	益田市	楠孝雄
わたしの願い	邑智郡	船津重信
植物研究雑誌 第55巻	隠岐郡	松浦康磨
島根幕末維新史	松江市	NHK松江放送局
明治の気骨	松江市	新宮暢子
飯石寿会20年誌	飯石郡	佐藤彰紘
出雲左官史	出雲市	片寄薰
尼子経久の出雲富田城	松江市	山本清
攻略説に就て		
征清戦史	松江市	山本晃
島根の歌人	松江市	本田秀夫

## ■島根県立図書館協議会開く

昭和56年3月2日、本年度第2回の島根県立図書館協議会（議長宗寂照県議 委員10名）が開催された。当日は水津教育長から、厳しい財政事情の下ではあるが、かねて建議のあった書庫等の増築、モデル市町村をはじめとする諸事業などに対して、56年度予算では相当の前進をみた旨の挨拶があり、続いて林館長から、県下の公立図書館新設の動き（55年度日原、56年度予定石見・仁摩・佐田各町）をふまえて、石見隠岐地区へのサービスを考慮しつつ図書館網の形成について検討する旨の挨拶があつて、議事に移り、昭和56年度予算、同じく館外・館内の活動計画ならびに増築工事について説明があり、それぞれ審議された結果、原案どおり承認された。

## ■移動図書館連絡会 開催

昭和56年2月16日、県下16教育委員会の担当者が集まり、主に55年度の読書普及活動の反省と来年度への展望が対議された。なかでも、掛合町、羽須美村、邑智町では図書購入費が補正予算で増額措置がなされたこと等が発表され大きな反響があつた。

## ■図書センター連絡会 開催

昭和56年2月23日、県下14町村から担当者が集まり自立的な町村読書施設の在り方の討議がなされ、56年4月1日より公立図書館として出発する石見町、仁摩町、佐田町からは新図書館の概要が発表された。なかでも仁摩町の5ヶ年にわたる「仁摩町図書館振興計画」はその綿密さにより注目された。

書名	住所	氏名
松江考古 第3号	松江市	松江考古学談話会
図書館の由来記	松江市	今井書店
あしあと	松江市	勝部光子
去来花	松江市	宍道達
森鷗外百話	松江市	山陰中央新報社
花影慕情	簸川郡	山本龍一
再版 農業全書1~11等	隠岐郡	斎藤修二郎
岩舟古墳・岩舟焼		
雅談の枝折	安来市	楫野泉宗
仏心焼・田頬焼		
弓ヶ浜物語	能義郡	妹尾豊三郎
出雲富田城史	松江市	早栗重子
山口百年 維新の遺跡	松江市	皆川恒也
松江城歴代藩主の菩提寺	松江市	内田兼四郎
史跡 金崎古墳群	松江市	岡崎雄二郎
八十年の旅路	隠岐郡	高木すま子
須佐大宮 念仏踊り	簸川郡	田中迪亮